

I 北海道の学力向上の取組に関する改善の方向性

ここでは、令和6年度（2024年度）全国学力・学習状況調査における全道の結果について、

- (1) 検証改善サイクルの確立
- (2) 授業改善
- (3) 小中連携の推進
- (4) 望ましい学習習慣の確立

の4つの視点から分析し、

- ・教科に関する調査の状況
- ・生活習慣や学習習慣等に関する質問調査の状況
- ・分析と改善の方向性
- ・道教委の取組

を掲載しています。

また、「分析と改善の方向性」では、授業改善の方策として「有識者による分析と考察」のほか、「高等学校の調査結果等を活用した授業改善の方策」等を掲載しています。

各市町村教育委員会及び学校においては、本資料を参考に、改善の方向性や効果的な学力向上策を把握するとともに、今後の取組を工夫・改善するなど、取組の一層の充実に御活用ください。

1 教科に関する調査の状況

「調査結果のポイント」から一部抜粋し再構成

◆ 各教科の平均正答率

			小学校		中学校	
			国語	算数	国語	数学
平均 正答率 (%)	R6	道	67 [66.8]	61 [60.6]	58 [57.6]	51 [51.0]
		国	68 [67.7]	63 [63.4]	58 [58.1]	53 [52.5]
	R5	道	66 [65.8]	61 [61.0]	69 [69.4]	49 [49.3]
		国	67 [67.2]	63 [62.5]	70 [69.8]	51 [51.0]

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値（道教委が独自に算出した小数値）

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値（国が公表した小数値）

- ・各教科の平均正答率について、中学校の国語は、全国平均とほぼ同水準、小学校の国語及び中学校の数学は、全国との差が、前年度調査と比べて縮まる一方、小学校の算数では、全国との差が広がっている。

2 生活習慣や学習習慣等に関する質問調査の状況

「調査結果のポイント」から一部抜粋し再構成

◆ 生活習慣や学習習慣等に関する回答結果

授業改善に関する項目

「前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた」と回答した学校

	R 6	(R 5)	R 6 全国比	(R 5) 全国比
小	39.4%	(40.8%)	+10.2	(+10.5)
中	30.4%	(32.0%)	+4.3	(+6.7)

「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていた」と回答した児童生徒（※令和5年度から質問文の一部を変更）

	R 6	(R 5)	R 6 全国比	(R 5) 全国比
小	42.3%	(38.8%)	+0.9	(+0.2)
中	37.7%	(33.6%)	+1.3	(-0.7)

望ましい学習習慣の確立に関する項目

「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている」と回答した児童生徒

	R 6	(R 5)	R 6 全国比	(R 5) 全国比
小	21.2%	(18.8%)	+1.4	(+0.9)
中	17.0%	(14.8%)	+0.4	(+1.4)

「普段、1日当たり1時間以上、テレビゲームをする」と回答した児童生徒

	R 6	(R 4)	R 6 全国比	(R 4) 全国比
小	79.5%	(81.4%)	+5.2	(+5.3)
中	72.5%	(74.4%)	+2.2	(+3.1)

自己有用感に関連する項目

「自分には、よいところがある」と回答した児童生徒

	R 6	(R 5)	R 6 全国比	(R 5) 全国比
小	40.7%	(39.2%)	-2.7	(-3.4)
中	41.5%	(37.7%)	+1.1	(+0.5)

学習意欲に関する項目

「算数・数学の授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒

	R 6	(R 5)	R 6 全国比	(R 5) 全国比
小	40.0%	(41.3%)	-4.9	(-3.9)
中	33.4%	(32.7%)	-1.7	(-1.2)

- ・授業改善について、「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていた」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、全国に比べて高い。

調査結果
のポイント



3 分析と改善の方向性

(1) 検証改善サイクルの確立

検証改善サイクルをよく行っている学校の授業では、児童生徒が、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると実感するとともに、学習した内容について見直し、次の学習につなげることができる傾向にあります。また、こうした取組を行っている学校ほど、全ての教科の平均正答率が高い傾向にあります。

各学校においては、子どもたちの学力や学習状況の分析と成果や課題を検証し、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習指導の充実と学習状況の改善を図ることが大切です。

(2) 授業改善

学習の中でICT機器を活用することで友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると実感している児童生徒は、国語や算数・数学の授業の内容がよく分かると実感し、課題解決に向けて、自分で考え、自分で取り組む傾向にあります。また、こうした取組を行う児童生徒ほど、全ての教科の平均正答率が高い傾向にあります。

各学校においては、ICT機器を効果的に活用し、児童生徒が目的意識をもって自ら学習活動を進めることができるよう、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが大切です。

子ども一人一人の資質・能力を育成するという視点から 授業改善を通じた検証改善サイクルの確立

(様々な社会的変化を乗り越えることができる資質・能力の育成)

近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、共通の取組をよく行っている学校では、児童生徒が課題解決に向けて話し合い、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている傾向にあります。また、こうした共通の取組を行っている学校ほど、総合的な学習の時間で、児童生徒が自ら課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいる傾向にあります。

各学校においては、義務教育9年間を通じた教育活動の推進や取組の充実に向けて、小・中学校の円滑な学びの接続を図ることが大切です。

ICT機器を週1回以上授業で使った学校の割合や、授業以外に、1時間以上、ICT機器を勉強のために使っている児童生徒の割合は、全国に比べて高い一方で、学校の授業時間以外に、1時間以上勉強する児童生徒の割合は、全国に比べて低い状況です。また、1日当たり、ゲームやSNSをする時間が2時間未満で、授業以外に1時間以上勉強する児童生徒ほど、全ての教科の平均正答率が高い傾向にあります。

各学校においては、児童生徒の学びが授業時間で終わることなく、児童生徒が自主的に家庭学習を進めていくことができるよう、授業と家庭学習との関連を図ることが大切です。

(3) 小中連携の推進

(4) 望ましい学習習慣の確立

■ 小中高12年間の接続を意識した授業改善の推進

自分らしさを大切にしながら自己肯定感をもって、分かる喜び・学ぶ楽しさを実感し、生涯にわたって学び続ける意欲をもち、様々な社会的変化を乗り越えることができる資質・能力を子ども一人一人に身に付けさせていくためには、小中高の接続を意識しながら、各学校種段階における授業を充実させるための取組の推進が必要です。